



# BUSINESS REPORT

**第47期通期事業報告書**

2020年7月1日～2021年6月30日



Business Report 2021

# 第47期通期事業報告書

## 経営理念

Management Philosophy

私達は、チェーンレストラン事業を通じ、顧客・株主・従業員・取引先・社会の、精神的・物質的幸福を調和させ、その安定的増進を実現します。

## ジョイフル 店員の誓い

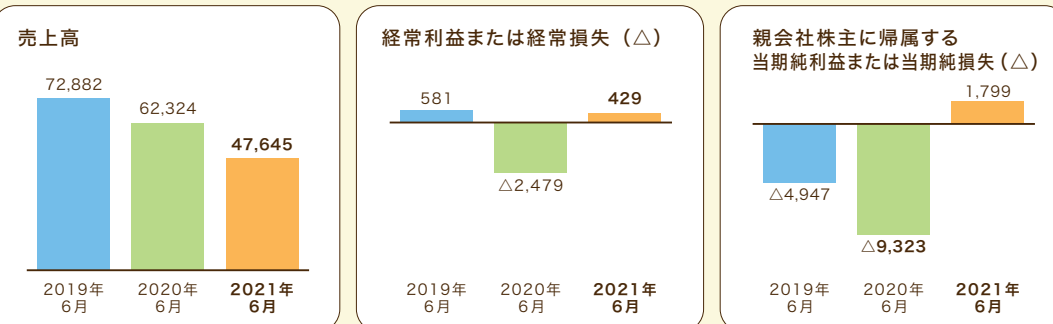
Our Promise

私達は、ジョイフルの旗のもと、信頼される品質の店、低廉な価格の店、どこにでもあって、いつでも開いている店、気軽に快く過ごしていただける店として、永続的・安定的に営業し、皆様に愛される店となります。

## 連結業績ハイライト

Consolidated Results

(単位：百万円)



## 収益改善に向けた取り組みを着実に実行し、財務基盤の安定化を進めてまいりました。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、ここに第47期（2021年6月期）の通期事業報告書を作成いたしましたので、ご高覧いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、1日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。また感染拡大防止にご尽力されている医療従事者や関係者の皆様に改めて敬意を表し、深く感謝申し上げます。

当連結会計年度における国内の経済は新型コロナウイルス感染症の影響が顕著になるなど、厳しい状況で推移いたしました。

外食業界においても外食需要が減少に転じるなど先行きの見通せない大変厳しい経営環境が続いております。またテイクアウトやデリバリー販売といったビジネス展開に取り組む企業の増加など、外食業界をとりまく環境が大きく変化しております。

当社グループでもこのような非常事態に対処すべく財務基盤の強化を図る観点から収益改善が見込めない店舗の退店を柱とする経営合理化を進めるとともに、当面のコロナ禍において中長期的な財務基盤の安定化を図ることを目的とし資本性劣後ローンによる資金調達を実行いたしました。

また既存のイトイン事業はもちろんのこと、外部販売、テイクアウトやデリバリー販売を強化するなどパフォーマンス向上に取り組んでまいりました。また並行して地域子会社の統廃合、本社組織のスリム化など管理面の効率化も進めてまいりました。

商品施策では既存商品のブラッシュアップを継続して提供品質の向上を進めると同時に試験販売を繰り返しお客様の消費動向を慎重に分析した上でグランドメニューの改定を1回、フェアを5回行いました。

営業施策では料理のクオリティー維持・向上を重点的な目的としてひとつひとつの作業の徹底を行い、良い品質で見た目にもき

れいで、鮮度の良いおいしい料理を安定的に提供できるように努めてまいりました。

また販売促進として季節ごとのキャンペーンに加え、特典と交換できるスタンプやランクごとの豪華特典、プレミアムラウンジの登場など「ジョイフル公式アプリ」の更なる充実を行いました。

店舗展開につきましては収益改善が見込めない店舗の退店を進めた結果、グループ直営1店舗の出店、グループ直営140店舗およびFC4店舗の退店により672店舗（グループ直営621店舗、FC51店舗）となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い客数の減少が負担に対して甚大な影響を及ぼした一方、時短営業協力金や雇用調整助成金等の助成金収入が発生したことで当連結会計年度における経営成績は売上高は47,645百万円（前期比23.6%減）営業損失は3,373百万円（前期は営業損失3,785百万円）、経常利益は429百万円（前期は経常損失2,479百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,799百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失9,323百万円）となりました。

なお第47期の期末配当は、新型コロナウイルス感染症の影響および財務状況を踏まえ慎重に検討させていただいた結果、無配とさせていただきます。株主の皆様には深くお詫言申し上げますとともに、可能な限り早期に復配できるように努めてまいりますので、引き続き当社へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



代表取締役社長

穴見くろみ



※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付とは異なります）

## 2021年6月期 主な取り組み

### 45周年をむかえ

1976年に株式会社焼肉園を創立し、その後ジョイフル1号店であるジョイフル萩原店（大分市）が開店しました。このたびジョイフルは2021年5月20日をもって創立45周年を迎えました。これもひとえに、ご来店いただいた多くのお客様の温かい御厚情の賜物と心より深く御礼申し上げます。創立以来、いちばん身近なレストランであることを目標に掲げ、低廉な価格で高品質の料理の提供と、ゆっくりとくつろげる団らん場の創成に取り組んでまいりました。昨今では、新型コロナウイルスの猛威により外食産業を取り巻く環境は大きく変化し、当社も経営合理化により収益性の改善を進めています。このような環境のなかでも支えてくださったお客様への感謝の意を込めて45周年創業祭を開催し、人気ハンバーグ商品の450円での提供やお子様メニューの45%オフでの提供など「45」をテーマとしたさまざまな施策を実施致しました。これからも多くのお客様に愛されるよう、なお一層の努力を重ねてまいります。

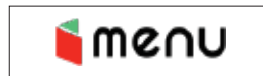


ジョイフル萩原店（1号店の当時の様子）



### デリバリーサービス拡大

コロナ禍に伴いテイクアウトやデリバリーのニーズがますます高まる中、ジョイフルではデリバリーサービスを2020年5月末より開始以降、170店舗（2021年6月末現在）がサービスの提供を行っています。導入店舗は順次拡大中で、現在は「出前館」、「UberEats」、「menu」のデリバリーサービスを導入しており、2021年7月には「foodpanda」「Wolt」のサービスを導入致します。今後もテイクアウト、デリバリーの需要は拡大することが見込まれるため、新たなサービスを開拓することで受注件数の増加を目指してまいります。



### デジタルプロモーションの推進

ジョイフル公式アプリにて2020年11月下旬に新たに開設した「プレミアムラウンジ」は、来店スタンプが有効期限内にプラチナカード以上に達したお客様のみ入室することができる特別なコンテンツで、プレミアムラウンジ会員様限定のお得な情報や、クーポン・特典などを配信しています。またウォークスタンプ機能やログインボーナス機能の追加を行うことでお客様の生活に寄り添い、アプリの使用頻度が向上する取り組みを行うことで、既存顧客の来店頻度向上に大きく寄与すると共に新規顧客の獲得にも寄与しております。



### 店舗リストラクチャリングの推進による収益改善

新型コロナウイルス感染拡大の影響により外食需要が減少に転じ、厳しい状況で推移しています。このような非常事態に対応すべく、2020年6月に発表しました「今後の退店計画に関するお知らせ」のとおり、財務基盤の強化を図る観点から収益改善が見込めない店舗の退店を柱とする経営合理化を進めており、2021年6月末までにグループ直営140店舗及びFC4店舗の退店を実施しました。

### SDGsへの取り組み

ジョイフルでは、持続可能な社会の実現への取り組みとして、大分市のフードバンク事業者「フードバンク東九州」様へ、従業員が家庭から持ち寄った食材を寄付いたしました。寄付した食材は、食べ物に困っている方や福祉施設に無償で提供されます。その他に、働きやすい職場環境づくりを推進することで、モチベーションの向上、労働生産性の向上、組織の活性化に繋がると考え、2020年から健康経営実施における目標を定め、「健康増進、生活習慣予防対策」「メンタルヘルス対策」などを進めた結果、2021年3月に「健康経営優良法人2021（大規模法人部門）」に認定されました。また、2018年に認定された「くるみん」は、子育てサポート企業としての実績が認められ、2021年も引き続き認定交付されました。継続して実施しているプラスチック製ストローの提供廃止、バイオマス材料を配合したテイクアウト用袋の導入などのサービスや事業活動を通じて、今後も環境保全と社会の発展のため、取り組みを進めてまいります。







※商品イメージ写真（実際に店舗で提供される盛付とは異なります）

## 2022年6月期 主な取り組み

### ヒカル×ジョイフルコラボ企画の実施

ジョイフルでは長期化する自粛により外食の機会が少なくなっている昨今の社会情勢において、ジョイフルでのお食事を通じてお客様に喜んでいただけるものを提供したいという思いからカリスマクリエイターヒカルさんとコラボレーションした新商品「ヒカル考案冗談抜きで旨いハンバーグ」「ヒカル考案冗談抜きで旨いハンバーグ&えびフライ」を全国のジョイフルおよびジョイフル商品取り扱いスーパーやドラッグストア、ジョイフル出店の通販サイト上にて販売いたしました。

皆様からのご支援のおかげをもちまして、累計販売数が7月27日の販売開始から1週間で20万食、1ヶ月で50万食、2ヶ月で100万食と大変好調な販売を記録させていただいております。

この快挙を記念してヒカルハンバーグ2商品のグランドメニュー入り、ヒカルさんのJoyfullアンバサダー就任を実施すると共にヒカルさんおすすめメニューをお得なお値段で提供する等、お客様にお喜びいただける施策を実施いたしました。

まだまだ新型コロナウイルスの影響が大きく出ている厳しい状況ではございますが、皆様からの温かいご支援を忘れず、これからも多くのお客様に愛されるような商品を開発するべく、なお一層の努力を重ねてまいります。



### 店舗使用食材の内製化の推進



ジョイフルでは全国3ヶ所の自社工場において食の安心・安全の確保と原価率の削減を目的として、ハンバーグやソース類の内製化を行ってまいりました。2019年より鳥切り身などに関しても内製化を進めており、2021年7月の時点で鳥切り身に関しては全国の8割を超える店舗にて自社工場製品を供給させていただくと共に7月より販売させていただいております、カリスマクリエイターヒカルさんとコラボレーションした新商品「ヒカル考案冗談抜きで旨いハンバーグ」に関しても完全内製化をさせていただいております。

ジョイフルの工場では2019年11月5日に熊本工場、2020年8月5日に福岡工場、2021年9月1日に愛知工場においてHACCPシステムを導入し、厳しい衛生管理手法を用いることで製品の安全確保に取り組んでおります。引き続き食の安心・安全を確保するために衛生管理に取り組んでまいります。



### 外部販売の拡大

2017年から開始した家庭用冷凍ハンバーグ等の外部販売は、九州エリアのドラッグストア・スーパーから販売が始まり、現在では、北海道から沖縄まで販売エリアが拡大しました。

「ヒカル考案冗談抜きで旨いハンバーグ」など販売商品も増加したことで、販売店が全国に拡がり、売上が急速に伸びております。

この外部販売を新しい収益の柱の一部とし、一層の成長を促すため、「Amazon」へのジョイフルオンラインショップ出店を皮切りに、「Yahoo!ショッピング」、サントリーグループが運営する「イエトソト」、「楽天市場」へのECモールに出店をいたしました。

高まる中食内食需要に対応するため、テイクアウト、デリバリーとともに、ネット通販を含む外部販売による販路の拡大を進めてまいります。



## 連結財務諸表

### Point

#### 資産の部

当連結会計年度末の総資産は30,800百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,694百万円の減少となりました。これは主に、現金及び預金の減少2,247百万円によるものであります。

### Point

#### 純資産の部

当連結会計年度末における純資産は3,254百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,833百万円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益による増加1,799百万円、自己株式の処分による増加999百万円によるものであります。

### Point

#### 営業損失

#### 経常利益または経常損失

営業損失(△)は△3,373百万円、経常利益は、429百万円となりました。主な要因は売上高の減少等に加えて、コロナ禍での営業休止や時短営業中の給与や家賃など各種固定費の負担が大きき影響したものです。経常利益につきましては、営業利益は減少したものの、助成金収入を計上した結果によるものです。

#### 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当連結会計年度 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	10,471	7,253
固定資産	24,023	23,547
有形固定資産	19,820	19,369
無形固定資産	563	497
投資その他の資産	3,640	3,679
資産合計	34,495	30,800
<b>負債の部</b>		
流動負債	19,335	10,269
固定負債	14,738	17,276
負債合計	34,073	27,545
<b>純資産の部</b>		
株主資本	373	3,172
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	2,315	2,315
利益剰余金	△ 4,221	△ 3,529
自己株式	△ 3,720	△ 1,613
その他の包括利益累計額	△ 25	7
純資産合計	421	3,254
負債純資産合計	34,495	30,800

#### 連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 自 2019年7月1日 至 2020年6月30日	当連結会計年度 自 2020年7月1日 至 2021年6月30日
売上高	62,324	47,645
売上原価	20,607	15,331
売上総利益	41,716	32,313
販売費及び一般管理費	45,501	35,686
営業損失(△)	△ 3,785	△ 3,373
営業外収益合計	1,525	4,050
営業外費用合計	219	248
経常利益又は経常損失(△)	△ 2,479	429
特別損失	6,220	254
減損損失	2,687	240
貸倒引当金繰入額	441	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	3,048	—
法人税等	844	107
法人税、住民税及び事業税	79	302
法人税等調整額	765	△ 194
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△ 9,323	1,799

※金額は百万円未満を切捨表示しております。

### Point

#### 負債の部

当連結会計年度末の負債合計は27,545百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,528百万円の減少となりました。これは主に、短期借入金の減少3,240百万円、店舗閉鎖損失引当金の減少2,773百万円によるものであります。

### Point

#### 売上高

売上高は47,645百万円(前期比△23.6%)となりました。減収の主な要因は外部販売売上の増加があったものの、新型コロナウイルス感染症に関して、政府による緊急事態宣言に伴う国民への外出自粛要請や各地方自治体からの営業休止及び営業時間短縮要請による売上高の急減、収益改善が見込めない店舗の退店を迅速に進めたことによるものです。

### Point

#### 親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は1,799百万円となりました。増益の主な要因は特別利益として店舗閉鎖損失引当金戻入額1,336百万円及び固定資産売却益389百万円を計上した結果によるものです。

#### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 自 2019年7月1日 至 2020年6月30日	当連結会計年度 自 2020年7月1日 至 2021年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,115	△ 1,699
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,021	413
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,797	△ 946
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 339	△ 2,233
現金及び現金同等物の期首残高	5,183	4,844
現金及び現金同等物の期末残高	4,844	2,611

### Point

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は、1,699百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,900百万円、減価償却費1,432百万円であり、支出の主な内訳は、店舗閉鎖損失引当金の減少2,773百万円、未払消費税等の減少644百万円であります。

### Point

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、413百万円となりました。収入の主な内訳は、有形及び無形固定資産の売却1,154百万円、敷金及び保証金の回収760百万円であり、支出の主な要因は資産除去債務の履行1,143百万円であります。

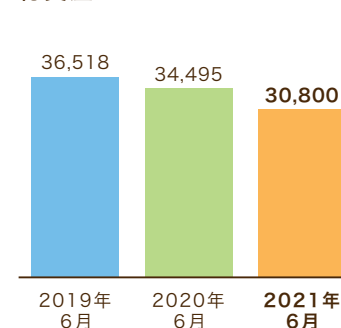
### Point

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、946百万円となりました。収入の主な内訳は、長期借入金4,000百万円、自己株式の処分999百万円であり、支出の主な内訳は、短期借入金の純増減3,240百万円、長期借入金の返済2,637百万円であります。

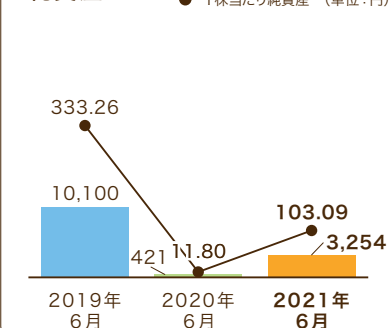
#### 総資産

(単位：百万円)



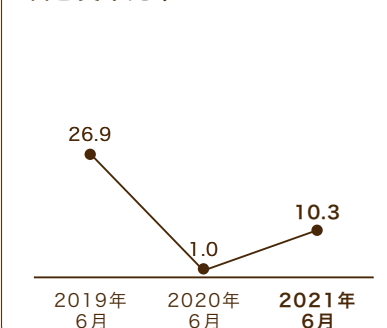
#### 純資産

□ 純資産 (単位：百万円)  
● 1株当たり純資産 (単位：円)



#### 自己資本比率

(単位：%)





## 株式情報

### 株式の状況

発行可能株式総数  
**120,000,000株**

発行済株式総数  
**31,931,900株**

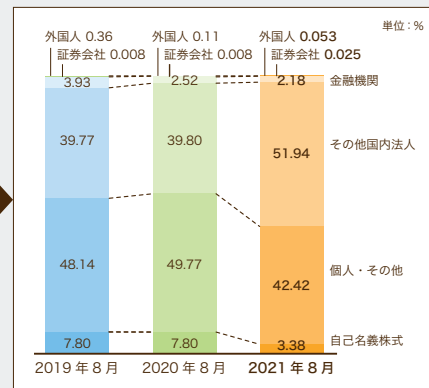
株主数  
**15,209名**

#### 株式の所有者別状況

	2019年8月31日現在		2020年8月31日現在		2021年8月31日現在	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	7	2,782	8	2,590	8	8,130
外国人	20	114,700	12	34,492	19	17,100
金融機関	11	1,256,286	6	803,486	5	697,686
その他国内法人	101	12,697,934	100	12,709,134	96	16,584,970
個人・その他	13,979	15,370,694	14,581	15,892,516	15,080	13,544,732
自己名義株式	1	2,489,504	1	2,489,682	1	1,079,282
合計	14,119	31,931,900	14,708	31,931,900	15,209	31,931,900

※基準日時点の株主名簿に基づき記載しております。

#### 株式の所有者別構成比率の推移



### 株主メモ

**事業年度** 毎年7月1日から6月30日  
**定時株主総会** 毎年11月  
**基準日** 定時株主総会の議決権/毎年8月31日  
 期末配当金/毎年8月31日  
 中間配当金/毎年2月末(中間配当を実施する場合)  
**単元株式数** 100株  
**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
**特別口座の口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
**郵便物送付先** 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
**(電話照会先)** TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

**公告の方法** 電子公告の方法により行います。但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。  
**公告掲載URL** <http://www.joyfull.co.jp/>  
**上場取引所** 福岡証券取引所

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について  
 株主様の口座がある証券会社にお申し出ください。  
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## 会社情報・店舗情報

### グループ店舗一覧 (2021年6月30日現在)

**672店**

うちFC店舗51店舗 ※( )内はFC店舗  
 ※新業態・台湾含む

九州・沖縄エリア  
**348店**  
 ※新業態店舗を含む

[ジョイフル 348店]  
 福岡 101(3) 大分 54(3)  
 佐賀 22 宮崎 37(1)  
 長崎 25(24) 鹿児島 53(7)  
 熊本 46(2) 沖縄 10(10)

中国エリア  
**87店**

[ジョイフル 87店]  
 鳥取 4 広島 16  
 島根 7 山口 36(1)  
 岡山 24

中部エリア  
**57店**

[ジョイフル 57店]  
 岐阜 11 愛知 28  
 静岡 12 三重 6

北陸エリア  
**11店**

[ジョイフル 11店]  
 富山 6 石川 5

東北エリア  
**11店**

[ジョイフル 11店]  
 宮城 10 福島 1

関東エリア  
**40店**

[ジョイフル 39店]  
 茨城 6 埼玉 11  
 栃木 4 千葉 7  
 群馬 8 東京 3

[キッチンジロー 1店]  
 東京 1

近畿エリア  
**71店**

[ジョイフル 43店]  
 滋賀 8 兵庫 16  
 京都 3 奈良 5  
 大阪 4 和歌山 7

[フレンドリー 27店]  
 京都 3 奈良 2  
 大阪 18 和歌山 3  
 兵庫 1

[キッチンジロー 1店]  
 大阪 1

四国エリア  
**41店**

[ジョイフル 41店]  
 徳島 5 愛媛 18  
 香川 13 高知 5

台湾  
**6店**

### 会社概要 (2021年6月30日現在)

創業	1965年6月	資本金	60億円	連結子会社	株式会社ジョイフル北日本/株式会社ジョイフル東海/株式会社ジョイフル関西/株式会社ジョイフル中国/株式会社ジョイフル四国/株式会社ジョイフル北九州/株式会社ジョイフル中九州/株式会社ジョイフル東九州/株式会社ジョイフル西九州/株式会社ジョイフル南九州/株式会社Rising Sun Food System/株式会社フレンドリー /株式会社キッチンジロー /台湾珍有福餐飲股份有限公司/株式会社ジョイフルサービス
創立	1976年5月	主な事業内容	「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開		
社名	株式会社ジョイフル				
大分本社	大分県大分市三川新町1丁目1番45号				
東京本社	東京都港区赤坂1丁目12番32号アーク森ビル24階				
福岡センター	福岡県築上郡築上町日奈古186番1号				
熊本工場・配送センター	熊本県菊池市袈裟尾字下大迫445番4号				
愛知工場	愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1番17号				